

京都大学工学部理工化学科、令和9年度入学者よりコース統合

概要説明

京都大学工学部理工化学科は、基礎化学と工学を連携させて社会の課題に向き合うという学科の理念を継承するとともに、多様化した先端化学領域でのさらなる研究の発展を目指し、令和9(2027)年4月入学者より創成化学コース、先端化学コース、化学プロセス工学コースを統合して、一つのコースに変更します。

コース統合の背景

化学という学問が社会から受ける要請は広がりを見せているだけでなく、その変化も加速しています。人類を取り巻く環境の変化が加速しており、工学研究科の化学系には社会要請に応えて、喫緊の課題に対処できる研究者・技術者を育成することが求められています。このような背景を受けて工学研究科の化学系6専攻(材料化学専攻、物質エネルギー化学専攻、分子工学専攻、高分子化学専攻、合成・生物化学専攻、化学工学専攻)は、基礎学問重視の伝統を堅持しつつ、研究の学際性を高めるために、令和8年度より1専攻に集約して化学理工学専攻となります。改組後の大学院教育との接続を円滑にし、学際的な視野と高度な専門性を兼ね備えた人材の育成に適切な体制を構築するために、分野横断的な広い基礎知識と希望する専門分野の系統的知識を修得できる学部教育体制が必要です。

コース統合の内容

令和9年度入学者より、教育体制を以下のように刷新します。

【現行】 学生は2年生前期終了時に化学の各専門分野に対応した3つのコース(創成化学コース、先端化学コース、化学プロセス工学コース)に所属しており、以降はそれぞれのコースで専門教育を受けます。4年生時の特別研究を実施する研究室は、コース所属の研究室から選択します。

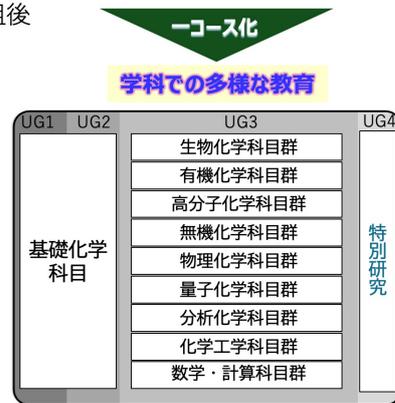
【変更後】 コース分属を撤廃し、化学の全分野にわたる幅広い科目を学べる1コースに統合します。4年生時の特別研究を実施する研究室は、理工化学科所属のすべての研究室から選択可能となります。

現行



- 2年生前期終了時にコース分属し、各コースで専門科目教育を実施
- 4年生時に各コース所属の研究室で特別研究を実施

改組後



- コースを一つに統合することにより多様な科目群の履修を可能に
- 特別研究は理工化学科所属の全ての研究室から選択可能に
- クラス担任による学生支援を3年生まで実施

2~3の科目群+希望科目の履修を想定

コースの統合は令和9年度の入学者から実施されるものであり、令和8年度以前の入学者については入学時に配布した履修要覧に記載のとおり、3コース体制が適用されます。また、コース統合後の学生が受験する令和13年度（令和12年度8月実施）以降の修士課程入学者選抜試験に係る試験方法について変更を行う予定です。詳細は随時、工学研究科のウェブサイト上で公表します。

なお、令和9年度修士課程・博士後期課程入学者選抜試験（令和8年8月実施）に係る試験方法の変更については下記サイトを参照してください。

修士課程：

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/graduate/exam1/news/ehwhql.pdf>

博士後期課程：

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/graduate/exam1/news/b0s454.pdf>